男と女の性解放との結合

——女にとって人間解放とは何か

《人間解放とは何か》という問いかけが発せられなくなって久しい。そして、人間解放論争が今は自明のことのように語られている。

しかし、ここで我々は人間解放の内容と形を自覚に、再度《人間解放とは何か》という基本の問いにこたえていくための性と主体を東回わせる形で考えてゆきたい。これはならないと考える。

《人間解放》という言葉が言葉のみがひとり歩きしている人間不在の形骸化したものを再度、根底的に問う問いに戻さねばならない。今、今だからこそ。

〈我々の男は朝鮮で何をしたか〉

我々は、ひらかれた朝鮮会・デモにおいて日韓癒着に抗議するというプラカードを掲げた。〈男たちよ、キーセンパーティに行かないでください。〉日本男としての集団の性、韓国の男は、一緒についていかず、そしてそれを〈女の問題〉として、我々の〈?〉問題に自覚的な排外主義的態度を与えていない、男を通じ自らの主体的な立場を明らかにした者としてあった。

[illegible]のため、我々のための人格的なものとして、キーセンのための肉体的表現としてのSEXを買う女性〈女〉としての見方を持っていて、それは〈日本の男〉として一般的なものを求めてきたのだった。そして同様に、従軍慰安婦が女の性の排泄処理の為に〈慰安〉を与え、性道徳を通じて男を戦場の秩序に従事させ、〈殺して〉天皇陛下のために〈と言〉っていたのだった。

キーセンの肉体的表現としてのSEXを買う女性〈女〉として生きていたということは、男と従軍慰安婦は同様に、戦時体制下における性差別社会の国策に従事する女たちに対しては、〈?〉を与えてきたと言えるが、しかし両面は同一線上の問題として我々にはないのだ。むしろ、民族としての日本の女としての責任を持っていないのだ。なぜなら、従軍慰安婦の大部分は、強制されて朝鮮の人々から集められたのだから。

我々のプラカードの誤りは、このことに気付かなかったことである。〈男よ〉と、日本の男にのみ語りかけることによって、朝鮮の女を自分の男の暴力から守ることに加担したのだから。

〈朝鮮キャンペーン国家は人間体制＝家〉

女として、キーセンパーティとして、女の商品価値を求める私有財産制下における、性差別社会は、女自身による女の物化を必然化する。性差別社会の基本としての〈家〉を軸に、日本〈男〉としての役割の中に、女の性と生殖を封じこめ、そして、女を売ることによって女の性を奪い、朝鮮の女の便所化を保証していったのだ。家父長制の根底にある〈日本の男〉は、民族排外主義の男でもあったのだ。

女にとって、〈家〉体制とは、女にバージン性を強要する性差別の社会体制に他ならない。さらに言うならば、性差別社会の基本としての〈家〉に他ならないのだ。そして、根底的な差別構造として、支配体制の基盤としてある〈家〉は、また民族排外の基盤でもあるのだ。〈内に家族主義、外に排外主義〉の支配イデオロギーは〈家〉を通じて、今も昔も続いている。

〈女の帝国主義〉

今、我々は、女の性と生殖を通じて〈家族＝家〉を支える性道徳の帝国主義的再編を担うものとして生きている。再び〈母〉としての役割の中に、女の性と生殖が封じこめられようとしている。かつて、戦前一貫して行われた性差別の社会構造こそが女の侵略戦争への加担を可能にするのだ。同時に、日帝の経済侵略を推し進めている東南アジア、台湾、韓国に於て、エコノミック・アニマルたちが、その処理のために他の国の女を買っているという状況が、アジアの連帯を叫ぶ我々の足元の中で展開されている。しかも、その女の売春を合法化させるという動きが、侵略と共に進められているのだ。〈売春防止法の一部改悪〉がそれで、再び女は便所に再編されようとしている。しかも又もや、他民族の女を便所化する国家と共に。

こうして、〈韓国〉は、主要には、抑圧民族としての日本人、日本政府から、あらゆる抑圧を受けている。在日朝鮮人、中国人、アジア人を中心に、強制送還を法制化して、あるいは、在日運動として展開されてきた。しかし、そうした闘争の中に、現在進行している排外主義攻撃の

武団主義的再編という事態が[illegible]の直撃の痛みを持ってとらえられてきただろうか。少なくとも、我々斗う女は、戦前から今まで、一貫して日本の男たちが汚し続けているアジアの女たちと、真向うことなくして入管斗争を政治課題化したり、国際プロレタリア主義を戦略の前提として口にしたりすることはできないはずだ。内なる入管体制としてある自らの性否定の意識構造を問いつめることなくしてアジア人との出会いはない。

〈女は侵略に役立つ子供を産まない、育てない!!〉
我々は、女〈母〉として生きていないのに、妻として、母として生きられる〈女〉と性否定社会体制に叩きつける斗いとして、中絶禁止法への斗いを展開する中で、女としての自然な生理機能を自ら否定する地点から、これ以上一歩も退くことのできないきわに自らを立たせつつ、最も抑圧されてきた共に、最も深く体制加担してきた者の歴史の全てをかけて、入管法上程阻止を、入管体制解体を斗い抜いていく決意である。

〈女が〈女〉として解放されるため〉
女性解放斗争とは〈女があつまってやる運動のことではない。自らの解放を求め斗っていく以上、どのような斗いの場にあっても、女にとってその斗いは、女性解放斗争であるはずだ。斗いをコトバだけのよそよそしいものにしないために〈女として〉自らの性と生殖を通じて、再度入管斗争を入管体制をとらえ直すことを非合法下に向けた階級形成の課題として、我々の姉と妹たちに提起したい。
そして、男たちに対しては、なぜNeW Leftの中から、人間解放を求める斗いの中から女が女の解放を叫ばざるをえなかったかを主体的に考え深めることを要請したい。
男よ、共に権力斗争を斗い抜こう。
ヤルズラ!!

中絶禁止法粉砕!!
中絶禁止体制(性否定の社会体制)解体!!
入管法上程阻止!!
入管体制解体!!

〈ぐるーぷ闘うおんな〉のスケジュール

11月23日、
パンプ"おんな"の勉強会
場所 大向区民会館 [illegible]
(西武デパートのA館、B館の[illegible]
を左へ左へ行き、右手にある。
TEL 416-2148 会場[illegible]
P.M 6.00〜9.30

11月26日
シンポ〈中絶禁止体制解体へ向けて〉
場所・時間未定
参加者は811-2534へTEL

29日 シンポ
〈スエーデンの女、日本の女〉
講師 森本哲郎
文京区民センター(地)後楽園下車
春日町交差点
P.M 5:00〜9:00

12月8日
〈侵略と斗うおんな集会〉
女は侵略戦争に役立つ子供を生まない
育てない!!
中絶禁止法粉砕 入管法上程阻止
場所時間未定

12日12日
活動者会議・集会
〈なぜリブが生まれたのか、女の
放はいかに斗い獲得されるか〉
豊島振興会館
(池袋東口 豊島公会
P.M 6:00〜9:00

ぐるーぷ闘うおんな
TEL-811-253